



日本医療バランスト・スコアカード研究学会

ニューズレター

第 17 号 平成 19 年 9 月 18 日発行

発行 HBSC 学会事務局

発行責任者 渡辺 明良

〒162-0805

東京都千代田区四番町 6 番地 内外ビル 6 F 603 号室

TEL 03-5941-6471 FAX 03-5941-6472

e-mail : info@hbsc.jp [URL:http://www.hbsc.jp](http://www.hbsc.jp)

学会事務局からのお知らせ

1. 第 5 回学術総会が開催されました。

平成 19 年 9 月 17 日(土)に、医療法人溪仁会(学術総会長：秋野豊明)において、第 5 回学術総会が行われました。当日は一般演題が 21 題、参加者は 242 名のご参加を頂き、活発な議論が行われておりました。次回は、平成 20 年 11 月 22 日に、福井県済生会病院(学術総会長：田中延善)において行われます。皆様のご参加をお待ちしております。

2. 北米への BSC 視察ツアーのご案内

当学会の企画委員会にて、11 月 18 日(日)～11 月 25 日(日)の 8 日間の日程で、アメリカ・カナダへの BSC 視察ツアーを企画いたしました。

会員の皆様のご参加を是非お待ちしております。

詳しくは同封のご案内書をご参照ください。

3. BSC ワークショップ in 沖縄のご案内

下記の要領で、医療施設への BSC 導入ワークショップ in 沖縄を実施いたします。本ワークショップでは、参加者の方に実際に自病院の経営環境や経営データをもとに、BSC 作成の一連のプロセスを実際に体験していただき習得していただくことを目的として実施いたします。先着順での受付となりますので、ご興味のある方はお早めにお申し込み下さい。

- BSC Workshop in Okinawa -

- ・日程：平成 20 年 2 月 29 日、3 月 1 日(1泊2日)
- ・会場：沖縄産業支援センター(那覇市字小祿 1831-1)
- ・参加費：会員 30,000 円 非会員 50,000 円(1名)

グループディスカッションを行うため、原則として 1 施設より 3 名～4 名でお申し込み下さい

参加費には食事(朝・昼 2・夜)、テキスト代を含みます

前泊は各自でご手配下さい

別紙申込書よりお申し込み下さい。

4. BSC 導入病院実地研修 in 聖路加国際病院のご報告

平成 19 年 7 月 15 日(日)に、聖路加国際病院において「BSC 導入病院実地研修 in 聖路加国際病院」を開催いたしました。病院での BSC の実際の使われ方や施設見学などが行われ、参加者の皆様に活発な議論が行われておりました。

5. BSC 導入病院実地研修 in 済生会熊本病院のご案内

平成 19 年 10 月 27 日(土)に、済生会熊本病院にて「BSC 導入病院実地研修 in 済生会熊本病院」を開催いたします。

済生会熊本病院では平成 19 年 9 月に「外来がん治療センター」をオープンしました。どうして今、外来でのがん治療に力を注ぐのか、そこまでたどり着くには BSC 的な考え方が大きな役割を果たしました。本研修会では BSC からみた外来がん治療センターの建築の経緯を説明した上で、見学会を開催致します。

BSC の導入、展開にとどまらず、これまでや今後の済生会熊本病院の戦略を紹介し、病院内外の課題を考える上で有意義な時間を過ごしていただけたと思います。どうぞご参加下さい。

別紙申込書よりお申し込み下さい

6. 学会誌発行のお知らせ

本学会の学会誌である「日本医療バランスト・スコアカード研究 第 4 巻・第 1 号」が発行されました。本日同封いたしておりますので、皆様の今後の研究・実践などに是非ご活用ください。

7. 書籍発刊のお知らせ

本学会、企画委員会の編集で「医療バランストスコアカード導入のすべて(生産性出版)」を発行いたしました。BSC の必要性和意義から、実際の導入方法までまとめた書籍です。ご興味のある方は是非ご活用ください。

【コラム】 地域連携パスを BSC で考える

聖路加国際病院 医療連携室 チーフ 三谷 嘉章

第 5 次医療法改正で地域医療計画が大幅に見直され、「4 疾患 5 事業（がん、急性心筋梗塞、脳卒中、糖尿病）（救急、小児、周産期、災害、僻地）」について、地域連携パスを用いた連携を推進し、都道府県ごとに定めた数値目標を達成する」という仕組みが次年度からスタートする。

そのため、各病院の連携室では現在この「地域連携パス」をどのように整備推進していこうか悩んでいるところも多いと思う。

しかし、この「地域連携パス」。そう簡単にできるものだろうか。特に都市部においては多くの大規模病院や大学病院などがひしめく中、疾患によっては治療内容の標準化が求められる「連携パス」は導入しにくいのが実情である。

では、どのように都市部でこの「連携パス」を導入していくか。この課題を考えた時に BSC 的な発想が役に立ちそうだと筆者は考えた。

「連携パスの導入」という戦略目標を 4 つの視点に当てはめるとしたら、やはり「業務プロセス」に当てはまる項目であろう。

BSC では「学習と成長の視点」で人員の確保や教育、組織文化の醸成を行い、それが整ったら、「業務プロセス」を「サービスを提供する顧客にどのような価値を提供するか」を踏まえてどのように変えるかを考える。という因果連鎖になる。

このように考えると、そのそも、何の土台もなく、いきなり「業務プロセス」の変更を行おうとしても無理な話である。だから、多くの連携担当者は「途方にくれている」のであろう。

まずは「学習と成長の視点」で下準備をする。これは、診療科のカンファレンスとオープンにするとか、地域の病院や開業医を招いた疾患の勉強会を開催したりとか、連携室同士のネットワークを作ったりとか、こうした土台を作る必要がある。こうした連携関係が構築された後にすぐのステップに進まなければならない。

前提条件の「何のための業務プロセス変更か」は、例えば「地域でのその疾患の総入院日数の短縮」のようなものが来るので、それを達成するための業務プロセスとして「連携パスの導入」というような戦略目標が来る。

この流れを戦略 MAP にすると以下のようなものが出来上がる。

財務の視点	総入院日数の短縮
顧客の視点	（早くよくなる）
業務プロセスの視点	連携パスの導入
学習と成長の視点	勉強会の開催 連携ネットワークの構築

おそらくこの戦略 MAP は 1 病院では作れない BSC なので、さしずめ「連携 BSC」とも呼べるようなものの雛形のような MAP になるかもしれない。